慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	シンポジウム : 文化医療臨床人類学の新展開 : アラン・ ヤング教授を迎えて
Sub Title	
Author	宮坂, 敬造(Miyasaka, Keizo)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	活動報告書 Vol.1, (2007.) ,p.16- 16
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20080300-0016

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2 シンポジウム
文化医療臨床人類学の新展開—アラン・ヤング教授を迎えて

開催日　2007年7月29日
企画班　哲学・文化人類学班
企画者　宮坂敬造
講演者　Mohacsi Gergely、八代嘉美（東京大学）、Allan Young（McGill University）、他

7月29日（日）、10：00 ～18：00 東館GSEC-LABOにおいて、＜文化医療臨床人類学の新展開——人類の論理・感性／精神研究の融合領域におけるその位置——アラン・ヤング教授を迎えて「PTSD」、「社会的脳」、「先端医療と文化」を考える／A New Horizon in Culture, Medical, and Clinical Anthropology —Exploring New Research Areas of Human Logic, Sensibility, Reason and Emotion: PTSD, the Social Brain and New Medical Technologies—Drawing upon Allan Young's Work in Medical Anthropology＞を開催した。マッギル大学医療人類学教授アラン・ヤング先生は、2007年7月14日～ 8月9日の日程で、慶應義塾大学社会学研究科招聘教授として来日されたが、同大学院の教育プログラム強化のために、大学院講義をお願いするかたわら、同上研究セミナー学会（グローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」および慶應義塾大学社会学研究科研究資金による）のための、基調講演オリジナル論文“Changing Perspectives on Mind, Brain, and Empathy: Implications for Understanding the Intersection of Reason and Emotion.”を用意してくださった。基調講演では、近年の社会脳研究枠組みにふれ、その発展は機能性MRI による脳機能画像解析技術の進展と密接に関係するものの、19世紀後半の神経学者Hughlings Jackson のモデルの再発見ともいえる点などが指摘され、心と脳モデルに関し理性と感情の交差点をどうとらえるかには歴史的枠組み変遷の検討がまず必要である点が指摘された。この研究セミナー学会は同教授に代表される文化医療人類学の広がりそのものをまず再把握し、それらの背後の共通潜在テーマを理解することが目標であったが、前半部のワークショップでは、“Putting Disease on the Body”: Pharmaceutical Practices of Diabetes Care in Japan（Mohacsi Gergely）、同コメント（浜雄亮）、日本の幹細胞研究と再生医療の現状（八代嘉美）、総合コメント（波平恵美子）、後半部の研究セミナーでは、ヤング教授の同上基調講演ほか、Trauma, Narrative, and ‘Fonction Fabulatrice’ of Janet（江口重幸）、The Pervasiveness of the Concept “Trauma” in Japan, 1980-2000（佐藤雅浩）、Social and Communication Development in Autism Spectrum Disorders（直井望）、Neuroethics in Contemporary Context of Scientifi c Communities in Japan（福士珠美）、全体討論（白波瀬丈一郎、波平恵美子、北中淳子、宮坂敬造）の順で慶大、東大、お茶の水女子大等の研究者が発表・討論をおこなった。参加者は90名程度だが、主要な若手や重鎮の研究者が参加し、活発な学会となった。終了後、社会学研究科委員長杉浦章介教授主催による懇親会が開催され、ヤング教授以下が拠点リーダ渡辺茂教授等と交流した。（宮坂敬造）